

若年性がん患者が作る！若年性がん患者のための情報マガジン

# STAND UP!! 04

2013.SPRING

～がん患者には『夢』がある～



Dreams come true

想いのこもった夢、見～つけたっ！

若年性がん患者76人へのアンケート！！

より良い闘病生活のために 心のケアの利用法

男子恋愛座談会

世界にはばたけ

カラーボール

Special Interview

タレント 原 千晶

どんなことが起きてもポジティブに対処していくことが  
生きていくということなんだ

若年性がんと向き合う10人のストーリー



## CONTENTS

### 03 巻頭スペシャルインタビュー

「どんなことが起きてもポジティブに対処していくことが生きていくということなんだ」

タレント 原 千晶

### 06 若年性がんと向き合う10人のストーリー

#### 17 4コマ漫画

闘病中…「失敗」しちゃいました 〇〇

#### 18 Dreams come true

想いのこもった夢、見～つけたっ！

#### 20 若年性がん患者76人へのアンケート！！

#### 22 より良い闘病生活のために

心のケアの利用法

#### 24 男子恋愛座談会

#### 26 世界にはばたけカラーボール

#### 28 私たちのオススメ紹介

#### 29 STAND UP!! 活動報告

#### 30 編集後記

#### 31 NPO法人ゴールドリボン・ネットワークの取り組みについて

どんなことが起きても  
ポジティブに対処していくことが  
生きていくということなんだ



Special Interview

## タレント 原 千晶 さん (38)

取材・文／鈴木美穂

協力／角井結理、松井基浩

「ものすごくショックだった」  
30歳でダブルの告知。

「がんがわかった時のことを教えてください。」

私は2度がんになっているのですが、最初は30歳の時に子宮頸がんが分かりました。生理が辛い、お腹が痛いなどの不調を感じて病院に行ったところ、子宮の入り口にできものが見つかり、病理検査をするために手術を受けました。それから2週間後くらいに結果を聞きに母と二人で病院に行ったところ「がんだった」と告知されました。

「告知された時はどのようなお気持ちでしたか。」

当時30歳というのもあって、まさか自分が…という思いが強かったです。そうかもしれないという不安は告知される前からあったのですが、多分大丈夫だろうと高をくくっていた部分がありました。

がんの告知はもちろんショックだったのですが、その後に「再発させないために子宮を全部取ったほうがいい」というダブルの告知があつて、すごく衝撃だったのを覚えていますね。30歳、まだ出産には希望を持っていたし、結婚はしていませんでしたが、いつか自分も思っていたのですごくショックでした。

「その後はどのような選択をされたのですか。」



その時先生は「今だったら子宮を取るだけで済むから」とおっしゃったのですが、当時の自分はんに対する知識や意識がすごく薄かったので、「もう悪いところは取ったのに、どうして女性にとって大事な臓器を全部取らなきゃいけないの」と全く理解できませんでした。

両親や身近な人たちからは「今手術だけで済むのなら、受けてほしい」と言われ、最初は承諾しました。しかし、やはり30歳という年齢で子宮を失うことの方が自分にとっては大きくて辛く、手術を土壇場でキャンセルしてしまいました。究極の選択という感じでしたが、自分の身に今起こっていることで命まで持っていられるという感覚がなかったもので、子宮を温存する選択の方が自分の未来につながると思いました。

その選択は、主治医の先生からも尊重してもらったことができた。その代わり検診、経過観察のためにちゃんと病院に通うように言われて、2年くらいは毎月まじめに検査を受けていました。でも、体調も良くなって、仕事が忙しくなると、病院から足が遠のいていきました。頭の片隅では5年が過ぎるのを指折り数えていましたが、時間が経つにつれて「やっぱり子宮を取らなくて良かった」という思いが強くなっていました。

「楔ぎを受けるような気持ちで2度目の手術。腹をくくった」

「そんな時にまた異変を感じるようになったんですね。」

2010年2月に5年が経ったらやっと無罪放免になる、と思っていた矢先の2009年の年末、体調の異変を感じるようになりました。今までにないほどの量の経血やお腹や腰の痛みを感じるが増えていきました。ところが、仕事が落ち着いたら病院に行こうと思っていた矢先に倒れてしまいました。パタンって、本当に苦しんで痛みで倒れて。近くの病院に駆け込んだところ、「命に関わるのに、どうしてここまで放っておいたんですか」と言われました。大丈夫と騙し騙しきていた私は、目が覚める思いがしました。再発や転移の可能性を知らなから、自分に当てはまるとは思っていませんでした。

その時は初発から約5年が経ち、年齢や人生経験の変化もあって、今だったら一度見送った子宮の全摘を乗り越えられると思ひ、腹をくくりました。けれど、子宮を取って終わりだと思っていたら「これは子宮どころか卵巣も卵管も骨盤内のリンパもこっそり取って、その後抗がん剤ですよ」と言われて、初めて自分の身にふりかかったことがたまたまではないと気づきました。

「そして2度目の闘病が始まるわけですね。」

はい、2010年1月にもともと通っていた病院で2度目の手術を受けました。初発の時は子宮頸部の腺がんが見つかったのですが、今度は子宮体部にもがんが見つかり、子宮頸がんと子宮体がんの併発でした。



「誰よりも支えてくれた」家族、そして彼の存在。

「闘病中に原さんを支えたものはなんだったのでしょうか。」

やはり家族が一番大きかったです。私の両親や彼の両親を傷つけてしまった、悲しい思いさせてしまったという点で後悔は消えませんが、誰よりも支え、わかっていてくれて、いてくれなきゃ困るなど改めて思いました。

「彼とはいっつ出会われたんですか。」

30歳で子宮頸がんになった3年後くらいの、ちょうど病院に行かなくなったあたりにお仕事で出会いました。付き合い始めてしばらくは病気のことは黙っ

「手術の後、抗がん剤を？」

そうですね。手術の病理検査の結果が3週間後に出て、リンパに1個怪しい転移があったので、そのまま抗がん剤を6クール行いました。



原 千晶（はら ちえこ）

1974年4月27日生まれ。北海道帯広市出身。

94年クラリオンガールグランプリでデビュー。以後、ドラマや映画、バラエティで幅広く活躍。

31歳で子宮頸がんを、36歳で子宮体がんを経験。自分の病経験をともに、ブログでがんやがんの予防・後遺症に関する情報を積極的に発信しているほか、2011年に女性特有のがんを患った人が集まって体験談などを分かち合う患者会『よつばの会』を発足。

ていましたが、この人なら信用できると思った頃に「実は子宮頸がんっていうのをやったんだ」と言ったら、「でも今病院とか行っている気配ないよね」と。その後も何度も何度も病院に行くように促してくれました。だからもう一回病気が見つかったときに、彼も「もつと言っておけばよかった」とすごく後悔したそうです。その頃はまだ結婚していなかったのですが、彼は長男で姓を継いでいく人間だから、子どもを産めない私と一緒にいたらまずいのではないかと思います。5年かけてようやく納得できるようになってきた運命を、彼に背負わせることにも抵抗があったので、それも伝えました。そうしたら彼が「今の時点で僕は君を選んでるわけだから、僕にもその運命がきつとあったんだろ。そこは納得するから、できるから」と言ってくれました。何度確認してもそこは揺るぎませんでした。それでも結婚は二人だけの問題ではないので、彼の両親のことを思

うと涙が止まらなくて、手術直前までこれでいいのかと何度も悩みました。その間も彼はずっと「とにかく治そう、絶対元気になるよ。5年後も10年後も生きていてくれないや困る」と言ってくれ、抗がん剤でビジュアルが変わった私にも何一つ変わらない態度で接してくれました。そんな彼の存在は大きくて、そのためにがんばって闘病したし、そこに救われていたと思います。

—それで、闘病後に結婚されたんですね。

抗がん剤も全て終わって体が戻ってきたら結婚しようということで、2010年10月に籍を入れました。治療が終わってから4か月後のことでした。

がんを通じて

「覚悟を決めて生きること」を

学んだ

—がんになって変わったことはありますか。

自分より少し先輩でお子さんがいらっしゃる女性の方に辛い胸のうちを語ったことがありました。「産めなくて、女性としての役割を果たせなくて、何のために生まれてきたんだろ」と。その方のお母さまの介護を長くされているのですが、「自分も一時期は母親になれなかったことを苦しく思ったけど、母の介護をしている中で、今は母が私の娘なんだと感じるようになった。すごく大きなものを失って、その喪失感で辛い思いをすることはすごく分かるけど、人生ってうまくできていて、失われたものをきちんと埋める出来事が起こるし、必ずエピソードになるから大丈夫」とおっしゃったんです。目から鱗が落ちた感じがして、その言葉は今もすごく支えになっています。

また、闘病中にいろいろな本を読んだ、思想や生き方から多くのことを学んだと思います。特に、自身も障害を持っているウィリアム・レーネンさんの著書から影響を受けて、全種類読みました。本を読む中で「人生に起こることすべてに意味があり、ポジティブ、ネガティブどちらがやってきても受け止めるのは自分自身で、それをどうやって昇華するのか、またはどーんと落ち込むのかは自分次第。だから自分の人生に責任を持って、どんなことが起きてもポジティブに対処することが生きていくということ、それが人生なんだ」と思え、立ち直るきっかけになりました。

役割を見つけ、「ああ生きてるなあって」

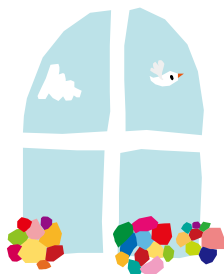
—これで埋め合わせられたんだ」と思えるものは見つかりそうですか。

私が今やっている「よつばの会」がそうだと思います。婦人科の病気にかかる、女性としてすごく傷つき、その喪失感は計り知れないものがあります。ブログにいただいたコメントを読んで、みなさんすごく溜め込んでいるのが分かります。これは吐き出せる場があった方がいいと思って、いろいろな経験を話して共有し合う会を去年の7月に立ち上げました。そこでみんなの話を聞くたびに、私自身も自分だけじゃないんだと心強く思えるし、こういうケースもあるんだと、とても勉強になっています。女性であり、がんを経験した自分がシンボリックな存在としてテレビに出続けることの必要性にも気づき、タレントの仕事に興味を見出すこともできました。それと、みんなが前進している感覚があるので、一度は経験できないかもしれないと思った「育てる」ことができています。自分のかわいい子どもではなかったけど、自分がかんばって何かを作り上げるとか育てるという感覚で、ああ生きてるなあと感じています。今後も「よつばの会」に参加してくれた女性たちが、新たな出会いをきっかけに、みんなで力を合わせて自分らしさ、自分を生きることが取り戻していったらと思っています。

# 若年性がんと向き合う 10人のストーリー

若年性がんを経験した10人が、発病から治療、再発、受験、就職、夢、  
がんと向き合うことについて語った物語。

一人ひとり生き方は違うけれど、  
10人全員が今この時を全力で生きている。



中村 美香  
悪性リンパ腫



広瀬 達也  
肺がん



角井 結理  
悪性リンパ腫



服部 裕吾  
骨肉腫



櫻井 はるか  
慢性骨髄性白血病



矢田 怜也  
悪性リンパ腫



高寺 朝子  
乳がん



家塚 祐太  
ユーイング肉腫



原澤 つくみ  
骨肉腫



向後 建  
急性リンパ性白血病



生かされていることに

感謝して……



中村 美香

(18歲)

高校生

## 悪性リンパ腫

01

私が体の異変に気付いたのは中学3年生の秋でした。最初はただの風邪だと思いい気にしていませんでした。が、だんだんと呼吸が苦しくて夜もまともに眠れないほどになりました。後日、小さいころからかかっている近所の小児科でレントゲンを撮りました。すると先生が「大きい病院ですぐに診てもらおうように」と言いました。その時私は「このまま家に帰れなくなるかもしれない……」と思いい、当時ケンカ中だった親友に会って仲直りしました。

次の日、私はすぐ大病院に入院しました。自分がどんな病気でどれくらい入院しなければいけないのかも分からないまま、たくさんの検査をしました。それでも私は、「出された薬を飲んでいればきつとすぐに退院して学校に行けるんだ！」と黙っていて、不安より「日でも早く退院してみんなに会いたいっ！」という気持ちが大きかったです。しかし、先生の言葉は「ここでは治療ができないので県立病院を紹介します」というものでした。

県立病院に行つてすぐに治療が始まりました。想像を絶する治療が、体力的にも精神的にも辛かったのを覚えています。気付いた時には、髪が抜け、肌も黒くなって、ガリガリに痩せた自分がいました。変わってしまった自分の姿を受け入れることができて、毎日泣きました。

受験ができないことが決まった時も、今までががんばってきたことがすべて水の泡になってしまったと落ち込みました。同じ年の友だちがみんなキラキラしていて楽しそうで……。それなのに、「どうして自分だけこんな思いしなきゃいけないの?」と考えてしまい、誰にどんなことを言われても耳を傾けることができませんでした。

そんな私をずっと隣で見ていた母もとても辛かったと思います。毎日1時間もかけて病院に来てくれるのにひどいことを言ってしまったこともありました。弟や妹もすごく寂しかったと思います。私が病氣になったことで、家族の生活も親友の生活も180度変わってしまいました。辛いやつが、辛い闘病生活を乗り越えることができたのは家族、友だち、信頼できる先生、看護師さん、治療に出会った方々のおかげです。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

病氣になる前は、私は普通の高校生活が送れると思っていました。今、同年代の子を見ると少し寂しい気持ちもあります。退院したから終わりというわけ

ではなく、今でも病氣のことでどうして  
も前向きな気持ちになれなかったり、先  
のことや病氣のことを考えたりしては  
落ち込んでしまうこともあります。です  
が、病氣にならなかつたら今の自分はい  
ません。入院中は無駄な毎日を過ごして  
いると思うけれど、今では全然無駄  
なんかじゃない、むしろ大切なことを私  
に教えてくれた、大事な約一年間です。

私は病氣を克服した自分を誇りに思  
います。そう思えるのも私に関わってく  
ださるすべての人のおかげです。人と人  
との繋がりや時間の大切さ、生かされて  
いるのだからどんなことがあっても限ら  
れた命の中でしっかりと大切に生きてい  
くことが、私を支えてくれた方々にでき  
る精一杯の恩返しだと思います。そして  
私も人を思いやり、支えることができる  
ような人になりたいです。



素敵な卒業式でした。  
みんなに会えて嬉しかった！



## 広瀬 達也

(32歳)

会社員

肺がん

## 肺がんになって良かった

肺がんと聞いてどのようなイメージを持ちますか。死が近づく、抗がん剤治療が辛い、呼吸が辛い、がんの中でも一番死亡率が高い……など、さまざまな負のイメージが湧いてくるでしょう。おそらくそれは紛れもない事実です。

私が肺がんと告知されたのは29歳の5月、現在の職場である医療関係の営業へ転職し、2年目が過ぎようとしていた時でした。仕事にも慣れ始め、体調管理など気にもせず、夜も0時過ぎまで仕事をする日も多々ありました。

そんなある日、携帯電話に知らない番号から連絡がありました。検診センターの方からで、健康診断のレントゲン検査結果が芳しくなく、右肺に白い影がある

ため再検査を勧告する電話でした。何かの間違いだろうと数カ月無視していましたが何度も連絡が入ったため、重い腰を上げて軽い気持ちで近所にある虎ノ門病院を受診しました。そしてドクターは私にこう切り出しました。「肺に悪性腫瘍の可能性があります」と。軽い気持ちで検査に行った私の心は一気に重みを増しました。ただ不思議と自分のことではなく、まるで他人事のように感じていたのを覚えています。

健康が取り柄だった私でしたが、血液検査、CT検査、PET検査と、今まで一度も経験したことのない検査を次々とこなしました。CT検査を行ったある日、血管に造影剤が注射されて体が熱く

なったのをきっかけに、何かのスイッチが入って急に涙が流れました。「なんで自分がこんな病気にかかるのか、本当にがんなのか、死んでしまうのか……」、急に不安な気持ちになり、なんとも言いようもない恐怖が体中を巡りました。CTの検査台に乗っている自分は、まるでまな板に寄せられた魚のような気持ちでした。

さまざまな検査の結果、3cmの悪性腫瘍があることがわかりました。即刻入院し、何も考える余地もなく右肺中下葉切除をし、切除後6クルールの抗がん剤治療を行いました。抗がん剤治療の個人的な感想としては、肉体的な辛さはもちろんありますが、それよりも精神的な辛さが大きいと感じました。髪の毛が抜けるのであらかじめ坊主にしていた私でも、実際に抜けた時のショックは大きなものでした。女性にはさらに厳しい現実だろうと想像できます。

そんな私を勇気づけてくれたのは友人たちでした。写真に写っている友人たちは、抗がん剤で坊主にする私に合せて坊主に。会社があるのにも関わらず、私のためにそこまでしてくれたことに目頭が熱くなりました。彼らは私にとって一生の宝です。また彼ら以外にもたくさん

の友人に支えていただきました。現在も働かせていただいている会社にもとても感謝しています。会社のサポートなしには現在の生活は成し得ないです

し、当時は仕事ができなくなるのではないかとという身体面や社会面での心配に加え、医療費を払えないかもしれないという経済的な不安に、会社は正面から向き合ってくれて、私を見捨てることなくサポートしてくれました。

がんの負のイメージはおそらく拭いきれないと思います。ただ、がんになったことで、私はたくさんの方に支えられて生きていくのを実感しています。そして私もまた誰かを支えているのだと理解し、8月に新しい命が生まれて支えるものがさらに増えることになりました。

現在は毎日経口抗がん剤を服用しながら生きています。今は肺がんになって良かったと胸を張って思えます。



抗がん剤投与前に坊主になってくれた仲間たち！ 感謝！





03

角井 結理

(23歳)

就活中

悪性リンパ腫

がんになった自分を受け入れたい!!

2011年2月、大学卒業が確定し、私は新しい就職先で研修を始めていました。研修開始から1週間が経ったころ、せきや微熱、だるさが続くようになりました。初めのうちは「疲れがたまっただけ」と、気にも留めませんでした。が、次第に症状は悪化していききました。3週間が経ったころ、顔が別人のように腫れたことで、職場の先生や家族から一度病院に行くように促されました。言われるがままに病院で精密検査を受けると、レントゲンに8cm×15cmの巨大な影が映っていました。その影を目にしたとき、自分は妹と同じ病気になるってしまったと確信しました。珍しい病気で、姉妹でかかることはまず考えられ

ないと言われていた病気でした。初期症状も異なっていたので気づくことができませんでした。動揺する家族、友人を見ながら、自分だけ入院期間や治療中に起こりうる副作用、将来のことについて冷静に考えていたのを覚えています。

治療中は、吐き気、嘔吐・発熱・粘膜炎・骨髄抑制など、さまざまな副作用に襲われました。副作用に苦しみ、治療の選択に戸惑い、家族に申し訳ない気持ちで押しつぶされそうなの日々が続く、治療を投げ出したかったこともありました。それでも家族や友だち、ゼミの先生、看護師、医者に励まされながらなんとか治療を終えた私は、これからまた楽しい日々が

待っているという希望でいっぱいでした。しかし退院後の生活は、自分が思っていた以上に過酷なものでした。遅れて出てくる副作用の影響で外出を控える日々が続く、さらに再発の可能性を匂わせる検査結果が半年間出続けてしまいました。自分はこの先、生きていくことができるのか、生きていくとしたらどのタイミングで社会復帰していくのか、将来のビジョンを描くことができませんでした。努力では解決できない問題に直面し、私は完全に生きる気力をなくしていました。

「STAND UP!!」に出会ったのはそんなときでした。がんになった自分と向き合うために、同じ問題に向き合っている仲間に刺激を受けたいと考え、ネットで検索をかけたのが「STAND UP!!」との出会いです。送ってもらったフリーペーパーを初めて読んだときの感動は今でも忘れません。仲間の体験談に共感したと同時に、前向きにがんばっている仲間の姿はとても輝いていて遠い存在に感じました。「無理かもしれないけど自分もこんな風になりたい」、そんな思いで活動に参加しました。仲間との出会いは、孤独に病氣と闘っていた自分に、仲間に囲まれる温かさを感じ



兄が空気清浄機を買ってくれました☆

い出させてくれました。そして、がんばっているみんなの姿に、いつの間にか自分も背中を押されていました。

「STAND UP!!」に出会って半年、まだ完全にがんになった自分を受け入れたとは言えないかもしれませんが、22歳なりに積み重ねてきたことの中で、がんによって失ったものがあるのも事実です。それでも、がんになったからこそ出会えた仲間や経験できたこともたくさんあります。そんなことの蓄積が、がんになった自分を受け入れる力になっています。がんになったからこそ今の自分がいる、心からそう思える毎日を目指して、今、私はがんばっている最中です。



05

櫻井 はるか

(25歳)

研究開発

慢性骨髄性白血病

たくさんの人に

支えられて生きている



私が病気と宣告されたのは大学4年の5月でした。いつものように大学に行こうとした時、突然目の前がグラグラし始めました。いくら休んでも止まらない。自分の体がおかしいと気づいたのはその時でした。思い起こしてみれば、食事を減らしても太っていくお腹(脾臓が拡大していた)や常にある倦怠感など、病気のサインはあったものの、日々の忙しさから気にも留めていませんでした。

診察してもらったためにすぐ病院へ行き、念のために受けた血液検査で出た白血球の数値は52万、通常のおよそ8倍でした。「あなたは白血病だから、すぐにがんセンターの紹介状を渡すからね」。初めは訳がわからず他人事のように聞いていましたが、気づけば周りに人がいることなどお構いなしに一人泣き続けていました。混乱したまま家に帰り、両親に自分の口からがんであることを伝えると

母は泣き出してしまいました。その姿を見て、「自分がしつかりしなきゃ」と思っただのを覚えています。

家族や友人には弱い姿は見せまいと普通に振る舞っていても、一人になると「この先どうなるのだろう」という漠然とした不安からしゅっちゅう泣いていました。抗がん剤の効き目が出ず検査結果が良くならなかつた時、「私の体は大丈夫なんですか?」と泣きながら担当医に聞いたこともありました。

無事退院できた後も精神的な辛さは変わらず、むしろ大きくなっていきまして。大学生活に戻っても、周りの人は今までと同じように過ごしているのに、自分だけが追いつけない感覚、病気にかかる高額な医療費、就職活動。どんどん膨らんでいく不安で、何も考えられず塞ぎ込んでいた時もありました。「もう明るい未来なんて考えてはいけない……」、そう思っていた私を救い出してくれたのは、キラキラ輝く同じ白血病の先輩たちでした。

「いつでも力になるからね」「楽しんでね!」

「病気のことを一人で抱え込んだらだめだよ。本当にそんな辛いから。何もできないけどそばに居ることはできるから」かけてもらった言葉で心がふつと軽くなり、「私も楽しく生きていいんだ!」と気づかせてもらえました。病気になる前は、周りの人に心配をかけたくない

とがんばってしまうけど、いろんな人に話を聞いてもらって辛い気持ちを一人で抱え込まないようにすることが大事なんじゃないかなと思います。

私は病気から多くのことを学びました。正直、辛い悔しい思いをしたことは何回もあります。でも病気になったからこそ素敵な人たちに会えたし、たくさんの人に支えられて生きていることに気づくことができました。この収穫は私にとって、とても大切な宝物です。

現在も治療を続けていて、病気への不安は消えないけれど、今こうして生きていられる幸せを感じながら一日一日を大切に楽しく生きていこうと思っています。後悔する人生にはしたくない、だから前向きな気持ちで日々がんばっています。



入院中友人がくれた本とぬいぐるみ。とても励みになりました☆



06

矢田 怜也

(28歳)

会社員

悪性リンパ腫



## 大輪の花咲かせるために

「残念な結果が出ました。悪性リンパ腫です」。GW休暇に実施した検査の結果を聞くため、有給休暇を取得し向かった診察室。医師の表情は確かに残念そうでしたが、私は悪性リンパ腫という言葉を知らず、具体的にどれだけ残念なのか不明で、具体的なだけ返答。診察室を出てから携帯を取り出し、悪性リンパ腫を検索。「がん」という言葉が目飛び込み「え?」と思う、「5年生存率」という言葉が目飛び込み「あ、これは見ちゃダメ

なやつだ」と画面を閉じました。茫然自失です。

すぐに入院、骨髄穿刺など検査を約1カ月。そして検査後の宣告は「国内症例数34人目の稀なタイプ」「明確な治療法なく実験的な治療になる」。このころには虚無感から漠然とした恐怖と不安に変わっていました。元々20代であらゆることを経験したいと思っていましたが、そうはいってもがんを経験するとは思っていませんでした。とはいえ、なってしまうものは仕方がないし、26年間健康で過ごせたことがそもそも奇跡という考え方もできる。最終的には、「より強くなれる良い機会だ」と覚悟を決めました。「おれは1,000人の患者の中で精神力・ナンバーワン! (入院先は約1,000床の病院) そのおれが負けるはずない!」と他の患者さんには内緒で勝手に決意し、治療に臨むことにしたのでした。

入院そのものが初体験。点滴針から抗がん剤が体内に入ってくるのは、想像するだけで相当恐怖です。まだ治療が始まっていないころから戦々恐々。始まってからは吐き続け、やせ続け(マイナス15kg)、いつ襲われるか不明な吐き気に脅え続け、時に昏睡、2日間しびれ続け号泣、外泊中に気絶し救急車で搬送……。治療終了までの本気のカウントダウンを毎日続け、約半年間の治療(抗がん剤と放射線)を耐え、完全寛解を迎えることができた最たる理由は、やはり「人」に恵まれたこと。「人間にとって最大の賛辞は人間関係における賛辞である」という言葉どおりで、これまで買ってきたブランド物は何の役にも立ちませんでした、これまで出会ってきた人には大いに助けられました。

家族や職場の仲間やその他友人がほぼ毎日側にいてくれ、医師は信頼でき、看護師は元氣滂瀾。それと「来週からがんで入院することになったが、元々言ううと思っていた。付き合ってください」、

がんの告白と愛の告白を同時に受け止めてくれた、器の大きな彼女がいました。退院、復職して数カ月後に別れることになりましたが、今でも感謝の気持ちは全く薄れていません。

「恩返し」お見舞いに来てくれた全ての人に恩返しをしたい、「社会貢献」人のために貢献したい。こうした思いが闘病を通じてより強くなったことに一番の意味があったのではと感じています。また、幸せに至るためには悲しみも含めてあらゆる経験と感情を積み重ねる必要があるとすれば、大変貴重な経験になったことは間違いないです。退院後2年近く経過した現在も、集中力が持続しない関係で時間短縮勤務が続いていますが、人(あなた)との関わりを大切に、勇往邁進していきます。



髪が抜け始めた日

## がんと楽しく生きる



08

家塚 祐太

(24歳)

会社員

ユーイング肉腫

私がユーイング肉腫と診断されたのは高校1年の春でした。

小学生のころから野球をしていて、中学でもとにかく部活をがんばっていました。そのおかげで、長野県では有名な憧れの高校にスポーツ推薦で入学できることもすでに決まっていました。しかし、その時にはもう体の中で病気が進行していました。中学3年の夏ごろ、最初はただお腹の中に空気が溜まっているような変な感覚がありました。でもずっとその感覚があるわけではない状態でした。時間が経てばすくなくなるので、別に気にもして

いませんでした。でも、違和感が気になり病院で診察してもらいました。するとお腹に4cmくらいの腫瘍があると言われ、すぐ別の大きい病院で診察してもらうことになりました。その時点ではまだ病名は分からず、とりあえず手術してもらうことになりました。手術をするまで半年くらいあり、その間気をつけながら野球やトレーニングもしていました。手術をしてみると腫瘍は12cmと倍以上になっていたいましたが、その病院でも病名が分からず、がんセンターを紹介されました。そこで「ユーイング肉腫」と診断され、1年

間の入院がすぐに決まりました。あまりに急なことで何かなんだか分からず、高校野球ができなくなってしまうことがとにかくショックでした。

入院しても病院が東京のため、仲の良い友だちは誰もいないし、家族もいない、知っている人も誰もおらず、暗い闇の中に落とされたような感じでした。「何で俺がこんなめにあうんだ!!」とずっと思っていました。

行われたのは化学療法と放射線治療。

治療が本格的に始まると、副作用の嘔吐や貧血、そして脱毛など辛い日が続き、本当にこんな治療に1年も耐えられるのか自信もなくなっていました。でも、その病棟には自分と同世代の患者者がいっぱいいて、病気は違っても必死にがんを治そうとしている姿がありました。みんな闘病中といえどもとても元気で明るく、次第に私も心を開けるようになっていきました。また小児病棟のため、院内学校もあり、明るく面白い先生たちは勉強も楽しく教えてくれるので、あの時は確実に学力が上がった気がします(笑)。おかげで治療以外は楽しくなりました。ギターを教えてくださいました先生もいて、暇さえあればギターを弾き、野球が全ても思っていた自分に新しい趣味もできました。また治療のない時は、仲良くなった友だちが外に連れて行ってくれて、渋谷、原宿で買い物をしたりして、遊ぶのが大好きになりました。

治療は順調に進み、幸いなことに合併症なども何もありませんでした。退院が近づくと看護師から「みんなの前で退院ライブをしてほしい」と言われ、病棟内でミニライブもさせてもらいました。

現在は大学も卒業して普通の生活に戻り、野球もできています。今思い返せば1年の闘病生活の中で、数え切れないほど多くのことを学ぶことができました。普通に生活していたら絶対に体験しないことや考えないこと。こうして生活していられるのは周りに支えてくれている人がいるからだ、ということ。普段忘れがちになっているけど、支えてくれている人たちは本当に感謝しています。今も病気と闘っている人はたくさんいると思います。でも絶対に一人ではなく、支えてくれる人がいることを忘れないで乗り越えてほしいです。

今はMX21mmに入るのが夢です！オーディションもガチで受けています(笑)



これを弾いてがんばっていました

## 原澤 つぐみ

(18歳)

大学生

骨肉腫



幸せだから笑うのではなく、

笑うから幸せなんです

私が左膝に異変を感じたのは高校1年の夏でした。小・中学校とバスケットだった私は高校でもバスケットに入り、忙しくも充実した毎日を送っていました。3年生が部活を引退し、新チームで練習に励んでいた夏休み、「成長痛だろう」と放っておいた膝の痛みはどうしてもまんながでなくなり、スポーツ整形の病院でMRIを撮りました。そして、大学病院を勧められて、そこで生検をしました。検査結果が出る前から「9割方、骨肉腫でしょう」と言われていたこと、そして知

人が背中を押してくれたこともあり、結果を待たずに国立がんセンターに行きました。診察室で「まだ結果が出ていないから100%とは言えないが、骨肉腫という骨のガンだよ」と主治医から告げられたとき、ただただ涙が溢れたのを覚えています。3日後には気持ちの整理がつかないまま入院し、正式に骨肉腫の結果が出たと同時に化学療法を始めました。化学療法、人工関節置換手術、そして再び化学療法をし、一度は寛解を迎えました。その後、3度の肺転移と甲状腺転

移を経て、現在も治療をしながら大学に通っています。治療も手術も再発も、もちろん辛かったです。それでも私は、たくさんのお出会いと恵まれた環境のおかげで病気でも笑顔でいることができた。特に院内学級の存在、そして共に闘っている仲間の存在は私の中で大きなものでした。

フリーペーパー3号に特集がありました。国立がんセンター中央病院の小児科病棟には「いるか分教室」という院内学級があります。入院してからしばらくして見学に行った時、点滴を繋ぎながらも勉強をして、時にはゲームもして、とにかくみんなが笑顔でいることに衝撃を受けました。病院の中とは思えないほど明るい空間でアットホームな雰囲気。教室で過ごす毎日はとても楽しくて、いつも笑顔で前向きになりました。

また当時、楽器を教えられる先生が揃っていたため、ギター、ベース、ドラムを一から教えてくださり、学期末や学習発表会でバンドを披露するのが恒例でした。初めて触る楽器に興奮し、弾けるようになる喜びとみんなで音を合わせる楽しさ、本番後の感動は今でも鮮明に覚えています。この時の先生とは今も連絡を取り合っていて、ご飯を食べに行ったり、音楽の楽しさを教えてもらったりしています。

何度転移をしても「もう一度がんばろう」と思えたのは、いるか分教室の先生が

笑顔してくれたこと、そして一緒にがんばれる仲間がいたからだと思います。

今年の10月でがんになって3年が経ちます。私はまだ「病気になるって良かった」とは言うことができません。でもこうしたたくさんのお出会いのおかげで、「病氣」というハズレくじと同時に「素敵な出会いに巡り合えた」というアタリくじも一緒に引いた」と言えるようになりました。「STAND UP!!」に出会って私はまたひとつアタリくじを引きました。同じ苦しみ、同じ喜びを分かち合える仲間がいる。とても心強いです。

まだ治療は続きますが、私はこれからも今までに出会った素敵な人たちと一緒に笑顔でがんばります。絶対にがんを負けません。今、がんと闘っているみなさん、私や「STAND UP!!」のみなさんがいます。一緒に笑顔でがんばりましょうね！



入院をしてからベースを始めました♪





## 過去、現在、これから

今から30年前、14歳の時に急性リンパ性白血病で入院しました。初めの症状としては、動くとき頭がガンガンする、家の階段も一気に上れないなどでした。近くの病院を受診しましたが、自分自身あまり大したことがないと思ってがまんしていたせいで症状もかなり進んでおり、その日のうちに大きな病院に転院しそのまま入院しました。

告知はなく、再生不良性貧血という病名での闘病？生活が始まりました。「闘病？」というのも、告知がなかったので、

重い病気とこれから闘うという意識がなかったのです……。記憶に残っていることは、抗がん剤の副作用だったのかやたらとむくんだこと。放射線治療を頭にしたこと。小児病院でしたので同じ病室に3歳くらいの子どももいて、自分と同じ痛い治療を泣き叫びながら受けている子どもたちの泣き声は今でも耳に残っていますね。そして半年ほどの入院治療にて寛解、数年の通院を経て、19歳の時にいつのまにか治療も終わっていました。それから10年後の転職時に、既往歴に

ついて完治の証明書が必要になったために国立小児病院を再訪し、本当の病名を告知されました。新しい治療が始まり生存率も上がり始めたころだったので、「よく生きていてくれました」と言葉を掛けられたのを覚えています。もう昔のことでしたので、病院から告知されたことは両親には話していませんでした。

退院から25年間、何の後遺症も再発もなく過ごしてきましたが、6年くらい前から左足のつま先が上がりなくなり、つまずいたり、左手の細かい動きができなくなってきたりする症状が現れ、今から2年前にパーキンソン病関連疾患である「大脳皮質基底核変性症」という病気を告知されました。ただし40歳前での発症は聞いたことがないため、確定診断はできないとのことでした。

それから一年が経過した去年、NHKの番組で小児がん晩期合併症の存在を初めて知り、国立成育医療センター（当時の国立小児病院）を訪ねたところ、「晩期合併症でしょう」という診断でした。自分のたつた一度の人生において、過去と現在に2つの大きな病気に見舞われたことに納得がいかずやり切れない気持ちでしたが、唯一良かったことは、過去の病気の後遺症が原因で現在の病気であると分かったことです。ホッとしました……。そして現在の病気が小児がん治療の後遺症かも知れないということ、これからのことを両親に説明するため

に、自分から両親に「白血病だったんだね」と告知することとなりました。

自分ではいると調べているうちに「ゴールドリボン」や「STAND UP!!」などの活動を知ることとなりまして、小児がん経験者の生き残りとして自分の経験を生かし、今後のライフワークとしてこういった活動・支援をしていきたいと思っています。

晩期合併症はみんなに現れるものではありません。最近では抗がん剤も良くなり、放射線治療も必要最小限となっています。過度の心配は必要ないですが、自分の体は自分でしっかりフォローアップして、日々を大切に生きていきたいと思います。みんなも、ふあいと！



厳しい現実から明るい未来へつながる何かを見つけ出したい

# 闘病中…「失敗」しちゃいました△△

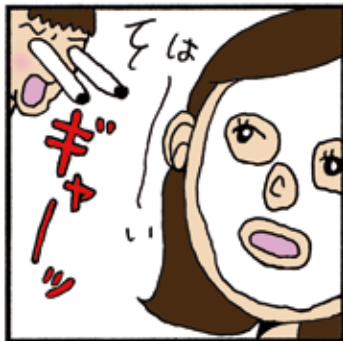
闘病中は色々な出来事があります。時には失敗しちゃうことも…。そんな数々の失敗談を紹介!!

イラスト / Ati

## めんどうで…



## 暇つぶし



## おしゃれを楽しむ



僕たち若年性がん患者には夢があります。

がんを経験することで周りの人から遅れをとったり、ハンディを負ったりするけれども、そんな僕たちでも夢を追うことができる！

想いのこもった若年性がん患者6人の夢を紹介します。

## カフェをOPEN

25歳でスキルス胃がんと診断され、胃を全摘出しました。入院中、自分が今後どう時間を使っていきたいか考え、祖母のやっている農業を継承しながらカフェを開くことを決めました。手術をしてからの2年半を計画に費やし、仲間をつくり、ようやくオープンすることができました。今後は自分の想いがこの土地に根付くよう頑張っていきたいです。



小玉 仁志

## 英国ロック翻訳本出版

28歳で子宮体がんに罹患。女性として生産性を失うことに。翌年、英国ロック翻訳本の企画が通り、そのバンドの来日と共に出版されました。あの“処女作”以来、歌詞対訳やインタビューなど多くの機会に恵まれました。何かに打ち込めば、夢は叶い、未来は創造され、生きている証を残すことができるのだと学び、実感する5年間でした。

白井 裕美子



## フルマラソン完走

趣味で続けていたマラソン。3度目を完走した翌月に29歳で突然の乳がん告知。病気を克服してまた走るんだと、術後4ヵ月にウィッグで東京マラソン10kmを完走しました！そして告知から5年たった2013年、ホルモン治療を続けながら、再び東京マラソンの舞台に立つことができ、42.195km完走しました！これからも走り続けていきたいです！



箕輪 恵



夢  
Dream

*Dreams come true*

想いのこもった夢、見~つけた



川島 真弓

## 漫画家になりたい

漫画家を目指し美大で勉強をしていた20歳の時、急性骨髄性白血病で緊急入院し、2年ほど抗がん剤治療を受け、骨髄移植をしました。体力も落ちてペンを持つのも辛く、歩くこともできない時期がありましたが、頑張ってリハビリをし、どちらもできるようになりました。今では通信制大学で学びながら漫画を描き、投稿をしたり、出版社に持ち込みにも行けるようになりました。これからも夢に向かって頑張ります。

## 小児がんと闘う子どもたちの力になりたい

16歳の秋、慌ただしく高校生活を過ごしている中、悪性リンパ腫と診断されました。毎日当然のように訪れると思っていた高校生活……突如奪われ落ち込んでいる私を救ってくれたのは共にがんと闘う友人たちでした。将来は自分を救ってくれた小児がんの子どもたちの力になりたいと思いました。現在小児科の研修医として働いており、将来は小児がんを専門とする医師になれるよう頑張りたいです。



松井 基浩

## がん患者さんの看護がしたい

19歳で滑膜肉腫となり、約1年間治療を行いました。もともと看護学生でしたが、治療後はがん患者さんの看護をしたいと思い、治療を受けていたがんセンターに入職しました。治療中に憧れていた場所に勤め、もうすぐ4年が経とうとしています。これからもがん患者さんにより良い看護ができるよう、頑張っていきたいです。



中島 千尋

# 若年性がん患者76人へのアンケート!!

若年性がん経験者76人(現在治療中の方を含む)を対象にズバリ聞きました。  
病気についてカミングアウトしましたか? してよかったですか?……がんに向き合う若者の本音を大公開!!

集計・構成/白井 裕美子

## Q1 がんと告知された後、 すぐにカミングアウトしましたか?

\*カミングアウトの相手は、家族以外を対象とします。

### YESの意見

#### 10代で罹患、すぐにカミングアウトしました

- きちんと自分の口で伝えた方が、誤解も起きないし理解してもらいやすいと思った。(20代女性・告知年齢18歳)
- 誰かに病気になったことを伝え、絶対治すって言うことで頑張る材料にしたかった。(20代女性・告知年齢19歳)
- 率直に言うと、寂しかったのが一番。隠す必要があるとは思えなかったし、もしもの時に言わなかったことを思うと絶対に後悔すると思ったから。(20代男性・告知年齢19歳)

#### 20代で罹患、すぐにカミングアウトしました

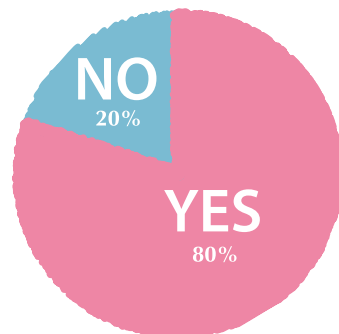
- 仕事を続けるにあたり、病気への理解をしてもらうのが重要だと思ったから。(30代女性・告知年齢28歳)
- そもそも何事も隠さない性格だから。それに1人でも多く応援してくれる人がいたほうが病気に打ち勝てる可能性も高まると思ったから。(20代男性・告知年齢26歳)
- カミングアウトというほどの意識がなかった。自分の状況を素直に話すのが自然だったから。(20代男性・告知年齢20歳)
- 親しい人には自分の状況を伝えておきたかったので伝えました。一人で抱え込むことが辛かったのだと思います。(20代女性・告知年齢22歳)

#### 30代で罹患、すぐにカミングアウトしました

- はっきりとした理由は今でもわかりませんが…話すことで少し楽になれると思ったのかもしれません。(30代女性・告知年齢32歳)
- 会社には治療により迷惑がかかるから。友だちには悩みを聞いてもらったり、ぐちを話したりしたかったから。(30代女性・告知年齢33歳)
- 別に隠す事でもなかったから。(30代男性・告知年齢30歳)

### ● カミングアウトしたとき…

- 理解してくれると思いつつも、いざ言うとなると声がなかなか出てこなかった。ただ、ほんの少しかドラマの世界に入ったような気持ちもあった。(20代男性・告知年齢20歳)
- 伝えることに勇氣はいるけれど、思いきって言ったことでスッキリした。(10代女性・告知年齢16歳)
- 話しながら現実を受け止めて心の整理をしていた。(30代女性・告知年齢22歳)
- カミングアウトする前にかんがりの覚悟を決めて、半泣き。笑(20代女性・告知年齢23歳)
- ずっと治ると思っていたので、自然に当たり前のように伝えた。(20代男性・告知年齢20歳)
- どんな反応をされるか怖かった。(20代女性・告知年齢22歳)



- 小さな職場のため、治療しながら働き続けるためには上司と同僚の理解は必須だったので、迷わず伝えて協力をお願いした。友人には、私の状況を知ってもらいたかったし、君らも気をつけて、という思いもあった。(30代女性・告知年齢30歳)

### NOの意見

#### 告知直後にカミングアウトしませんでした

- 告知直後は混乱していたため、誰かと話せる状態ではありませんでした。(30代女性・告知年齢31歳)
- 病気が理由で同情されなくなかった。(20代女性・告知年齢14歳)
- 気をつかわれるのが嫌だったため。(20代男性・告知年齢10歳)

#### その後、カミングアウトしました

- 病気について自分で受け止め始めたことで、同じ境遇にいる人のことを伝えたいと思いました。(20代女性・告知年齢14歳)
- 信頼している人たちには、今私が直面していること、これからを知っておいてほしいと思ったから。(30代女性・告知年齢31歳)

「NO」と回答したメンバーのうち80%は、その後カミングアウトをしました。そのうち約3分の2の人たちが告知から1年以内に、家族以外の誰かにカミングアウトしています。

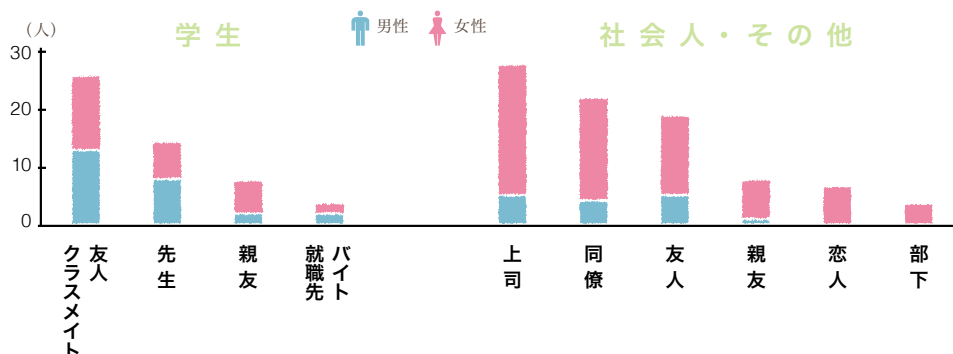
### ● 今、病気と闘っている仲間へ

- 人間関係が築けている間柄では、言っても問題ないと思う。(30代男性・告知年齢27歳)
- 知っていてもらいたい人、分かってくれる人に伝えればよいと思う。(20代女性・告知年齢24歳)
- 残念ながら、がんに対する社会的体制がまだ整っていないことから、悲しい思いをすることもたくさんあると思う。就職活動の際、不利になるなど。ただし、友人関係においては、お互いのために早い段階からカミングアウトしていたほうが円滑な人間関係を築けると思う。もし、自分だったら相手がどんな病気や不自由を抱えているか知っておきたい。そうすれば、どんなことを一緒に楽しめるかがわかるから。(30代女性・告知年齢33歳)
- がん関係の出会いが増えたり、情報をもらえたり、自分にとってプラスになることが多かったかもしれない。(20代女性・告知年齢23歳)

# Q2

## 誰にカミングアウトしましたか？（複数回答）

\*カミングアウトした相手として思い浮かぶ人を挙げてもらいました。  
学校や会社への事務連絡先を除いたメンバーもいます。



# Q3

## カミングアウトしてよかったですか？ それとも……

「わからない」と無回答: 7.9%

### カミングアウトしてよかった (76.3%)

- 1人で考えてもネガティブな考えしか浮かばなかった。  
(30代男性・告知年齢29歳)
- 助けが必要な時に、助けを求めやすくなったし、聞いてくれた皆さんが若年性がんに関心を持って身近に考えてくれるようになった。  
(20代女性・告知年齢18歳)
- 理解してもらえ、治療で休む際も気が楽になったし、それ以上に、健康が第一だと応援してもらえたことが嬉しかった。  
(30代女性・告知年齢33歳)
- 闘病中にカミングアウトしていたことで友人にはたくさん支えてもらえた。辛いとき支えてもらったので今も感謝しているし一生の友人になれた。(20代男性・告知年齢16歳)
- 親身になって心配してくれ、入院中は友人のお見舞いやメールが本当に励みになりました。(20代女性・告知年齢22歳)
- 地元のテレビやラジオ番組に出させてもらい元気になったことを伝えることで、闘ってる人たちの力になった。  
(20代女性・告知年齢19歳)
- 復職後の仕事の量の調節ができたし、上司の理解が安心感になり、仕事に集中することができた。(30代女性・告知年齢28歳)
- お見舞いに来てくれたりしなかったら絶対に入院生活に耐えることはできなかったと思う。それでがんばれるなら力を借りることも大切だと思う。(20代男性・告知年齢19歳)
- 体調がコロコロ変わるので知ってもらったほうが相手も対処しやすかったようです。(20代女性・告知年齢25歳)
- 大切な友達にカミングアウトしたことで、絆がより深まった。  
(30代女性・告知年齢28歳)

### カミングアウトしなくてよかった／ しなければよかった (3.9%)

- 言っても虚しくなるだけなので。本当の意味で「理解」してもらえないから。見た目は普通なので、黙っていれば判らないし、変に気を遣われるのも、「大変だね～」と逆にものすごく軽く言われるのも大嫌いだから。ただ、墓場まで抱えていこうと決めつつも、結構しんどくなっている自分もいるのは事実です。(30代女性・告知年齢23歳)
- みんなの反応がいちいち気に触るようになってしまった。みんなにも気を使わせてしまうようになったので、申し訳ないとも思う。  
(30代女性・告知年齢32歳)
- カミングアウトしないほうが日常を楽しく過ごせて、病気になったことを忘れていた自分から。(20代女性・告知年齢14歳)

### どちらとも言えない (11.8%)

- 友人に対しては、どちらとも言えない。一緒に泣いてくれる友人がいた一方、地元の友人→その親→町内にダダ漏れ→親が近所のスーパーで顔見知りから不意に娘の病気のことを話しかけられ困惑、という田舎ならではの困ったこともあった。(30代女性・告知年齢30歳)
- 時々会うくらいの友だちにはしなかったほうがよかった。不安定な自分を見せることもあったから、ごく親しい友だちに限ってよかったと思った。(30代女性・告知年齢29歳)
- しなくて学校を休む理由を明らかにできない。しなかった方が良かったと思ったのは、復学した時に先生に勝手な臆測で特別扱いされたこと。(20代男性・告知年齢15歳)
- 人によって反応が違うのでどちらとも言えない。  
(20代女性・告知年齢23歳)



# より良い闘病生活のために 心のケアの利用法



がんになった時、私たちはたくさんの不安を抱えます。

そんな不安を家族や友人にも相談できず、一人で抱え込んでいる人も多いはず。

誰かに話すことで気持ちの整理ができたり、問題解決のきっかけになったりすることもあります。

そこで今回は、がんに関する相談窓口である“相談支援センター”取材しました。

文・構成／角井結理・櫻井はるか

イラスト／加藤文月

協力／順天堂大学医学部附属順天堂医院 がん治療センター

## Q. 相談支援センター※ってどんなところ？

※医療機関によって「地域医療連携室」「医療相談室」「がん相談支援室」など名称が異なることもあります。

A. 相談支援センターとは、がんに関するさまざまな相談や質問ができる場所です。

看護師や心理士、ソーシャルワーカー、栄養士、薬剤師などが連携を取っているので、さまざまな相談への対応が可能です。



## Q. 相談支援センターはどこにあるの？

A. がん診療連携拠点病院の指定を受けた病院に設置されています。

平成24年4月1日現在、全国に397カ所あります。

面談だけでなく電話相談も受け付けているので、がん診療連携拠点病院が近くになくても大丈夫！

## Q. 誰でも利用できるの？

A. 入院中、通院中の患者さん、他の医療機関を受診している

患者さん、通院を終えた患者さん、家族など、誰でも利用できます。

## Q. みんなはどんな相談をしているの？

A. 問題解決を目的に相談をするだけでなく、ただ話を聞いてほしくて相談をする人、病気や治療に関する情報がほしくて相談をする人など、その内容は多岐に渡ります。

どんな些細なことでもまずは気軽に相談してみましょう。



周りの同世代とがんになった自分を比べてしまいます。

社会復帰のタイミングに迷っています。

家族や友人との関係に悩んでいます。

自分だけ取り残されたような不安に陥ります。

治療の副作用によって生活に支障が出ています。どうしたらいいのでしょうか。

経済的な面で不安を感じています。

医者に気を使ってしまい聞きたいことがなかなか聞けずいます。



## 順天堂大学医学部附属順天堂医院「相談支援センター」へ行ってみました!!

順天堂医院に設置されている相談支援センターは、平成18年、国のがん対策基本法により開設されました。がん患者やその家族が気軽に相談できる場を設けることで、少しでも多くの患者やその家族が安心した生活を送れるように運営されています。

相談室



相談室は個室になっているので、周りを気にせず安心して利用できます。他の相談支援センターと同様、面談だけでなく電話相談も受け付けています。1回の電話で問題解決に至るケースも多いようです。

待合室



待合室は明るく広々とした雰囲気、本やパンフレット、ウィッグなど、がんに関する情報が盛りだくさん！本は貸出可能で、パンフレットは自由に持ち帰ることができます。

がんに関する本、パンフレット



ウィッグ



順天堂医院 がん治療センター看護師長  
奥出 有香子 さん

悩みを人に相談することは勇気がいること。なかなか相談できずに一人で抱え込んでいる人も多いのではないのでしょうか。人に悩みを話すことで楽になることもあります。また、気持ちを言葉にして相手に伝えることで自分の気持ちを整理でき、解決のきっかけになることもあります。よりよく生きていくために、相談支援センターのようなサポートを気軽に利用してもらえたらいいと思います。

### 記事担当者より

相談支援センターの取材をするまで、「心のケア」に対し暗いイメージがあり、利用することに抵抗を感じていました。しかし実際に行ってみると、気軽に利用でき、悩みを穏やかに受け入れてくれる温かい場所であることを知りました。また些細なことでも相談にのってくれるので、わからないことや病気のことで悩んだときには、また足を運んでみようと思っています。行くことに抵抗を感じる方は、電話で利用してみるのもいいと思います☆（はるか）

私は、悩みを抱えた時、家族や友人に相談をすることが多いのですが、がんに関する悩みに限ってはそれができませんでした。理由は、支えている側のつらさもわかるからこそ、家族や友人には「心配をかけたくない」「辛い思いをして欲しくない」という思いがあったからです。距離が近いがゆえに相談できないことって意外に多いのではないかと思います。そんな時、相談支援センターのように、家族や友人以外の人に安心して気軽に相談できる場があったらとても救われるのではないのでしょうか。（ゆり）



# ♥ A round-table talk about LOVE

## 男子恋愛座談会

構成／熊耳宏介

写真／金子生幸

好きな人になんのことを打ち明けるタイミングは難しいですが、皆さんはどのように伝えていますか？

**松井**…16歳で発病して、彼女と出会ったのが18歳……大学入学の時に会って、早いうちからがんのことは伝えていました。好きだからこそ知ってもらいたかったし、病気のことを含めて付き合ってくれるか考えてほしいというのがあったので。

**広瀬**…その方は大人の女性ですね。高校を出たばかりなのに病気のことを受け止められるってすごいと思う。松井君が相当魅力的だったんでしょね(笑)。

**熊耳**…自分は17歳で発病した時、付き合い始めたばかりの彼女がいました。急にがんを宣告されて、彼女には伝えたくなくて、お互い傷が深くならないうちに別れようって、一方的に別れちゃいました。たぶん自分自身が、がんであることを受け入れられなかったんだと思います。今は、病気をしたからこそ現在の自分があると思ってるので先に伝えますよ。「STAND UP!!」の活動のこともフリーペーパーのことも知ってほしい。

**福田**…入学とか就職とか状況によって変わってくると思うんですけど、仲のいい友だちは知っているし、好きになる子も友だちの期間に自然な会話の中で病気のことを知るんじゃないかな。だからあえて自分から急に病気の話はいし、流れの中で伝えられたらいいですよ。

**熊耳**…付き合ってから伝えるのは怖いですよ。ある女の子は「付き合う直前に伝える」とって言うてましたけど。

**広瀬**…それは作戦なのかもね。最後の最後までガツリ固めておいて、男性が受け入れざるを得ない状況を作るみたいな(笑)。

**熊耳**…あとは経験もあるかもしれないですね。僕は平気ですけど、がんを経験したことのない一

般的な男性が「私がなんの」って急に言われたらどうなんだろう？女性の方が、母性なのか何なのか受け入れてくれる気がする。

**松井**…男は弱いからかな。

**広瀬**…少し話は違うけど、8月の第一子誕生の時に嫁の出産に立ち会って、女性はやっぱ強いなって思ったよ。こんなに必死に戦って、生んでくれたんだって。それを見ると見ないのでは、その後の妻と子どもの愛し方も違ってくると思う。

**福田**…広瀬さんは結婚後に罹患したと聞きましたが、奥さんにどんな感じで伝えましたか？

**広瀬**…会社の健康診断で白い影が写ってるって言われたけど、嫁には心配をかけたくなって結果が分かるまでは詳しくは伝えなかったよ。今考えれば逆に心配させたと思う。結局、早く言った方が良かったのかなって、恋愛に限らず、言わないと自分で抱え込んで追い込んでしまうよ。オープンにした方が楽だし、気持ちも前向きになれるかな。

がんと伝えるタイミングについて話してもらいましたが、がんになつて良かったこと悪かったことはなんですか？

**福田**…病気は自分の一部、生活の一部なので、恋愛に関しても変わったという感覚はないです。ただ、将来のことをちゃんと考えるようになったのはあるかな。いろんな意味で視野が広がった気がする。

**熊耳**…時間を大切にしなければって思うよね。

**松井**…恋愛について良かった点を言うとい人かどうかって、がんのことを言ったときの反応でどのくらい理解してもらえるかって分かるじゃないですか。少しスリリングですけど、本当に受け入れてくれて、しっかり考えてくれる人は自分の中ですごく信頼のおける人だし、長く付き合っ



いけるかどうかの基準にもなると思います。

悪かった点は、彼女には病気のことを受け入れ  
てもらえなくて、彼女の親に反対されちゃって  
学生時代は6年くらい付き合っていましたけど、  
彼女の親とはずっと会えなかったんです。僕もな  
んだかんだ病気というデリケートな部分を言わ  
れて反発しちゃったところがあったので、彼女は  
僕と親の間に挟まれて辛かっただろうなって反  
省しています。

広瀬：今は良好な関係なの？

松井：そうですね、良好です。今だから思うん  
ですけど、周りを見てみると、普通に過ごしてきた  
人でも彼女の両親から反対されるケースがあっ  
て……。病気のことを言われて過敏になっちゃい  
ましたけど、職業や年齢の問題で反対されてい  
る人と同じで、病気も「乗り越えるべき壁」だ  
と思って最初から接することができていれば良  
かったなと思います。

熊耳：親の反対を押し切ってまで結婚するのは  
難しいですね。僕の友だちも、彼女が家を継が  
なきゃいけないから結婚するなら婿養子になり  
なさい……。畑は用意してあるからって言われ  
たみたいです(笑)。

松井：その方が病気を受け入れてもらうより、  
よっぽど大変だと思うんですね。婿養子にな  
るかならないかの選択は2つに1つしかないし。  
広瀬：なんでも考え方だと思ふな。僕が病気に



広瀬 達也 (32歳)

29歳で肺がん。結婚後に罹患  
し、32歳の時に第一子誕生。



松井 基浩 (26歳)

16歳で悪性リンパ腫。  
26歳で治療後に知り合った女  
性と結婚。



熊耳 宏介 (30歳)

17歳で白血病。20歳で再発。  
治療後1人と交際。



福田 康介 (21歳)

18歳で白血病。  
治療後は交際経験なし。

なっている良かったことは、逆にポジティブにな  
れたことかな。初めはネガティブだったけど、そ  
れを乗り越えてポジティブになればいいという  
まじいのかなくて。僕は治療をすると子どもが  
できないって本当に悩んだ時期があったけど、や  
れることはやってみようと気持ちになれたたか  
らこそ、元気な子どもを授かることができたん  
だと思っています。

病気でマイナスになったことはあんまりないけ  
ど、僕が結婚してなくて恋愛している立場だっ  
たら、いろいろ悩むと思うな。

熊耳：自分は、実際に付き合うかどうかで決断  
を迫られると考えちゃいますね。トータルすると  
3年くらい入院していたから、子どものことが心  
配。好きになった人が子ども好きだったならお  
さらだし、彼女の両親も「なんでそんな人を選ぶ  
の」ってなりそうなのがする。好きな人だからこ  
そ幸せになんてほしい……。そう思うと、なか  
前に進めないんですね。  
広瀬：僕もがんなったとき、すごく考えたよ。  
嫁どうしようって。子どもまだいない。生命保  
険も入ってない、残せるもの何にもないやつ。  
ずっと悩んでいて「別れた方がいいんじゃないか  
な」って言ったら、「ふざけんな!!」って言われた。  
「子どもは何かなるかもしれないし、あなた  
が好きで結婚したんだから、それは考えなくて  
いいよ」って……。泣いちゃったよね(笑)。

熊耳：今日はこのいう話が聞けて嬉しいんです  
よ。治療後に子どもが産まれたってことも夢を  
持てる話だし、一人で悩まずにいたのかもしれない  
ですね。病気のことは話せるのに、幸せに出  
来るのかどうかでことになると勝手に心配に  
なっちゃって。

広瀬：幸せに出来ないって思ってる人にはつい  
ていかない、っていうか幸せにしろよ」って言わ  
れるよ。そのくらいの気持ちじゃないとダメで  
しょ。子どもについても全然可能性はあると思  
う。僕は人工授精で出来たし、女性は男より強い  
からきつと受け入れてくれると思うよ。

みなさんと同じようなことで悩んでい  
るメンバーや患者さんがいると思いま  
すので、経験者としてアドバイスをお願い  
します。

松井：結婚に関して言えば、やっぱり反対される  
可能性があるということ。最初は絶対へこむと  
思うので、そこは乗り越えるべき壁として頑張っ  
てほしいですね。へこんで反発している時期は、  
自分の奥さんになる人を傷つけている時期でも  
あるので、それを踏まえた上で、反対されている  
ことを自分自身が受け入れられるようになった  
時に、しっかりと相手の両親と話をしてほしいで  
すね。親御さんも自分の娘を困らせようとしてい

る訳ではないし、その相手は「自分の娘を好きに  
なってくれた人」でもあるから、絶対分かってく  
れるはずですよ。

熊耳：結婚や子どもの話もあったけど、まずは自  
分のことを素直に伝えることから始めたらいい  
のかなって。病気のことを伝えるか悩んでいる人  
がいるのなら、勇気を持って伝えてほしいです。  
意外とすんなり受け入れてくれるし、急に距離  
が近づくケースもたくさんある。病気を伝えて、  
それでも好きって言ってくれるなら、それは相手  
が「この人は私のことを幸せにしてくれる」って  
思ってくれている証拠なんだから、頑張るまし  
う。アドバイスというか自分自身に言ってるん  
ですけど(笑)。

広瀬：そうそう、勝手に悲劇のヒーローを作り  
上げちゃいけないよね。自分がへこたれていると  
きは、僕の場合は嫁だったけど、周りの人も自分  
以上に辛いだろうなって感じたし、だからこそど  
んどんプラスに考えていかないと、いい方向には  
進まないだろうなってすごく思う。

福田：今日はこれからの話がいろいろ聞けたの  
で良かったです。自分の想いを伝えることは難し  
いことだけど、相手の気持ちを考えながら話す  
ことの大切さを改めて感じました。焦らなくて  
いいと思うけど、素敵な人を見つけれられるよう  
に頑張ります。



# COLOR BALL

## カラーボール

「STAND UP!!」から生まれたユニット・カラーボール。

2010年、がん経験者である高橋和奈(Vo.)と坪内雄佑(Gt.)により結成。

「STAND UP!!」の総会などでライブを披露するだけではなく、

いまやテレビの取材が来るまでに活動の幅を広げています。

そんな2人に、カラーボールを結成することになったきっかけや、

歌で伝えたいメッセージを聞いてみました。



### カラーボール結成のきっかけ

▼和奈…2010年の夏、みんなでカラオケに行ったときに、つぼも私も音楽をやっていることが分かって、「音楽で何かやりたいね!」という話が出たんです。その後、つぼがテレビに出て、それを観た方からライブの依頼が来たんですけど、つぼが「オレひとりじゃ無理だから、一緒に出て〜」って言ってきました(笑)。わたしは当時まだ治療中だったので、たまたま抗がん剤の休業期間だったのでチャレンジしてみることにしました!

▼つぼ…そうなんです、ひとりじゃ怖くて(笑)。カラオケで和奈が歌っているのを聞いたときに「この歌声をもっと他の人に聞かせたい!」って思いました。そこから色々話そうになって、「音楽を通してがんの経験を伝えていこう!」っていう方向性が一致したので、カラーボールの活動を始めました。

### ユニット名の由来

▼和奈…本当に急なお誘いでライブまで日数も全然なかったんで、ユニット名は全然考えていませんでした。「急いで考えなきゃ!」って感じて、つぼが考えてくれました。

▼つぼ…えーと………本当はスーパーボールだったんです(笑)。それが、完全に言



葉を間違えてカラーボールになりました（笑）。スーパーボールって一回思いっきり壁にぶつかったら、その分大きくジャンプするじゃないですか。あの感覚が、がんになってからの自分の”どん底から空高く跳ね返るようなイメージ”と重なりました。がんになって辛い思いもしたけど、その分成長したスーパーボールだ！ いや、カラーボールだ！ みたいな（笑）。

### 歌で伝えたいこと

▼和奈…「ひとりじゃないよ」ってことを伝えたいです。わたしも、自分が”がん”だとわかったとき、「なんで、わたしだけこんなに辛い思いしなきゃいけないの？」って思いました。でも、「STAND UP!!」のみんなに出会って、「辛い思いをしているのは私だけじゃないんだ」ということを気付かせてもらいました。そして、「夢をあきらめなくてもいいんだ」ってことも。感謝の気持ちを忘れないようにこれからも歌い続けたいです。

▼つば…自分が入院している時に一番見たかったのが、「俺、がんだったけど今こんなに元気だぜえ〜」みたいな人でした。テレビで見るのは”がんイコール絶望”のシーンばかりで。だから、自分が一番見たかった「がんだったけど今は元気！」を、活動を通して同じ状況だった人たちに伝えていきたいです！

## COLORBALL



高橋 和奈 (26歳)

23歳の頃、胃がんを発病。

Kazuna Takahashi



Guitar

坪内 雄佑 (21歳)

11歳の頃、ユーイング肉腫を発病。

Yusuke Tsubouchi

## For My Dear

Music/Lyrics Kazuna

あの日、未来が来るなんて  
想像すらできなかった  
今ここにすることが幸せで  
キミと出会えたことがとても愛しい

「じゃあ、また明日ね」っていう いつもなにげなく使う言葉  
あの時わたしに明日はあるのかな？って怖くなって  
現実から逃げることもできなくて ただ信じられず  
時間だけが過ぎていった わたしだけ置いて

いつも明日は勝手に来て去ってゆけだと思っていた  
過ぎた時間は二度と戻らないのに  
ただ立ち止まっていたよ キミに出逢うまでは

ひとりで孤独だった日々 キミに出会ってから変わったよ  
何も知らなかったきのうにはもう戻れないけど  
今日が来たことに心から“ありがとう”伝えたくて  
わたしはここにいますよ これからもずっと…

あの日、未来が来るなんて  
想像すらできなかった  
今ここにすることが幸せで  
キミと出会えたことがとても愛しい

未来のことなんてわからないけど もうひとりじゃないから  
どんなに高い壁も乗り越えてゆこうキミと一緒に

あの日、未来が来るなんて  
想像すらできなかった  
今ここにすることが幸せで  
キミと出会えたことがとても愛しい

支えてくれるキミへ  
ありがとう



# 私たちのオススメ紹介

STAND UP!! が選ぶMOVIE & MUSIC & BOOK の紹介コーナー

Culture

## 気分転換したいとき



### MOVIE 紅の豚

©1992二馬力・GNN  
DVD 発売中  
価格: 4,700円(税込4,935円)  
発売元: ウォルト・ディズニー・スタジオ・ジャパン

男女の恋愛の機微をオシャレに描いていて、その世界観に存分に浸れるところが大好きです。がんを抱えるとどうしてもがんのことを考えてしまい、悩んでしまう時があると思いますが、そんな時に心を優しく洗うのにピッタリ。また、豚のかっこよさに感情移入している自分自身にちょっと笑えますよ♪ 飛ばねえ豚は、ただのブタだ! (ラザニア)



### MUSIC BORN THIS WAY

<通常版> ¥2,500(税込)

LADY GAGAのアルバム『BORN THIS WAY』。

収録曲の「The Edge Of Glory」は日本でCMにも使われていました。LADY GAGAの力強い歌声とパワーを感じることが出来ます。疲れた時にこの曲を聴いて元気をもらいました。(柿ピー)

## 共感したいとき



### MOVIE 私の中のあなた

Blue-ray(税込4,935円)  
DVD (税込3,990円)発売中  
発売元: ギャガ  
販売元: ハビネット

15歳の少女アナは、白血病の姉ケイトのドナーになるために遺伝子操作で生まれた。しかしアナは臓器提供を拒み、両親を訴える。その行動に隠された本当の想いは……?入院中にこの映画を観て、大部屋だったのに涙が止まりませんでした。がんを変に美化したところがなく、素直に観ることができます。(かおり)



### MUSIC The beginning

<通常版> ¥3,150(税込)

絢香のアルバム『The beginning』。

バセドウ病を乗り越え、約2年ぶりの復帰を果たした絢香のオリジナルアルバム。病気を乗り越え新たなスタートをきった絢香の歌詞に共感し、パワーをもらいました!!(ゆり)

## 前向きになりたいとき



### BOOK 夢をかなえるゾウ

水野敬也(著)  
飛鳥新社

自己啓発本を読んでいて「そんなの当たり前でしょ」と思うことありませんか?この手の本はあまり好きではない僕ですが、この本には出会えて良かったです。電車の中で読むと危険な程笑えます!そして歴史の偉人達の名言やエピソードにも詳しくなります! (りょうや)



### BOOK 心を整える。勝利をたぐり寄せるための56の習慣

長谷部誠(著) 幻冬舎

自分の弱さを認めながらも、いいところを大切に、どのように生活していくかをテーマにしたもの。この本を読んで“自分の弱さ”から逃げてきたことに気づきました。それを認めて、どう生かしていくかが大切なんだと考えさせられます。心が乱れているとき、自分に自信がなくなったとき…そんなときに何度も読み返しています。(あかね)

# 若年性がん患者団体 STAND UP!!

## 「STAND UP!!」とは…

「STAND UP!!」とは、35歳までにがんに罹患した若年性がん患者による、若年性がん患者のための団体です。私たちの活動目的は、現在闘病中の若年性がん患者が前向きに闘病生活を送れるようにすることです。そのために、2009年の立ち上げから現在まで、メンバーが自らの闘病経験を活かし活動してきました。主な活動内容は、フリーペーパーを通じた情報発信、メンバー間の交流、がん啓発イベントへの参加です。

これらの活動を通して若年性がん患者の輪が広がることで、一人でも多くの患者が孤独に闘病生活を送ることがないように願っています。

## 2012年度活動報告

<div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; text-align: center;">4月</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●フリーペーパー3号発行</li> <li>●ゴールドリボンウォーキング</li> <li>●フリーペーパー3号お披露目会</li> </ul>		<div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; text-align: center;">10月</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●LIVESTRONG主催がんチャリティーコンサートにてカラーボール演奏</li> <li>●雑誌『がんサポート』で紹介</li> <li>●サポートメンバーとグッズ製作</li> </ul>	
<div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; text-align: center;">5月</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●カラーボールライブ</li> </ul>		<div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; text-align: center;">11月</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●総会</li> <li>●雑誌『サンデー毎日』で紹介</li> <li>●「病院を変えるデザイン展」でフリーペーパー各号を展示</li> </ul>	
<div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; text-align: center;">6月</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●朝日新聞(平成24年6月22日朝刊)で紹介</li> </ul>		<div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; text-align: center;">12月</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「病院を変えるデザイン展」でフリーペーパー各号を展示</li> </ul>	
<div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; text-align: center;">7月</div>			<div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; text-align: center;">1月</div>		
<div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; text-align: center;">8月</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関西にてメンバー交流会</li> </ul>		<div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; text-align: center;">2月</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●テレビ東京「生きるを伝える」でカラーボール紹介</li> </ul>	
<div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; text-align: center;">9月</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●漫画『Silky』9月号で紹介</li> <li>●リレー・フォー・ライフ inちば2012</li> </ul>		<div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; text-align: center;">3月</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●TBS「Nスタ」で紹介</li> <li>●国際会議「IEEPO」に参加</li> <li>●NHK「ウイークエンド関西」で紹介</li> </ul>	

**STAND UP!! メンバー募集**  
<http://standupdreams.com/>

現在若年性がんと闘っている方、闘病経験のある方、一緒に繋がって交流しませんか？定期的に開催されるイベントやチャットを通してメンバーと交流を深めることができます。入会方法については、STAND UP!! ホームページをご覧ください。ご意見、ご感想、お問い合わせもお待ちしております。



代表  
松井 基浩

多くの方々に支えられ、STAND UP!!のメンバーは160人を超えました。そんな中、最も大切にしているのがこのフリーペーパーです。4号も新たな編集長を迎え、若年性がん患者さんが少しでも前向きになれるようなものになりたいという想いで、1頁1頁大切に作成しました。ご協賛いただきました、大原薬品工業株式会社様、ゴールドリボンネットワーク理事長・松井秀文様、ノバルティスファーマ株式会社様、フランシラ&フランツ株式会社様、この場をお借りして深く御礼申し上げます。このフリーペーパーが、少しでもがんと闘う若者の力になることを願っております。



「STAND UP!!」  
第4号 編集長  
角井 結理

“仲間がいる”“ひとりじゃない”そのことを知るだけで、人は何倍も強く、自分らしく生きることができると思います。一年半前、孤独に闘病生活を送っていた自分にそのことを教えてくれたのは、まさしくこのフリーペーパーでした。このフリーペーパーを通して仲間に出会えたことが私の人生の大きな転機だったと思っています。

—あの感動を見ている人にも感じてもらえるように—  
そんな思いで試行錯誤を繰り返してきた一年でした。出来上がったこのフリーペーパーが、誰かの人生の大きな転機になってくれることを心から願っております。

STAND UP!!に関わってくださっている全ての皆様、どうもありがとうございます。この4年間でSTAND UP!!は大きく成長し、メンバーがさまざまな場でつながり、活躍しているのを見て、いつも希望と勇気もらっています。そのキラキラとしたパワーが紙面を通じて全国の若年性がん患者さんに届き、前を向いて生きる力になるよう願っています。

副代表  
鈴木 美穂



フリーペーパー作成を通じて驚くほど多くの仲間や協力者と出会えたこと、フリーペーパー読者より嬉しいお便りが届くことを喜びに感じています。

最近では、TVや雑誌の取材依頼、がん関連施設や団体からの問い合わせが増えておりますので、このチャンスを活かして活動の輪を広げたいと思います。皆さんにお会いできる日を楽しみにしています。

運営委員長  
熊耳 宏介



“辛い気持ちを一人で抱え込む人がいなくなってほしい”そんな願いを込めてフリーペーパー4号の作成に携わりました。私は同じような立場の人たちに出会い、悩みや素直な気持ちを伝え合うことで前向きな考えを持てるようになりました。仲間の存在はとても心強いです。これからもこの繋がりが大きな輪となり、がんと闘う人たちの力となりますように。

「STAND UP!!」  
第4号 副編集長  
櫻井 はるか



## サポートメンバー募集!

STAND UP!! ホームページ

<http://standupdreams.com/>

「若年性がん患者ではないけれど、何か手伝いたい!」という声を多くいただき、『STAND UP!!サポートメンバー制度』が誕生しました。若年性がん患者の家族から、がんとは関係のない方まで、さまざまな方が集まっています。年会費 1,000円でサポートメンバーに登録していただいた方には、毎年発行のフリーペーパーをお送りします。そのほかにも「STAND UP!!」メンバーとの交流会のお知らせ、活動内容などのご報告メールも配信しています。詳しくは「STAND UP!!」ホームページをご覧ください。



スマートフォンからはQRコードを読み込むと簡単にアクセスいただけます。

ご協賛いただきありがとうございました

- 大原薬品工業株式会社 ●NPO法人ゴールドリボン・ネットワーク 松井秀文
- ノバルティスファーマ株式会社 ●フランシラ&フランツ株式会社





## 「小児がんの子どもたちに再び笑顔を」それが私たちの願いです 認定NPO法人 ゴールドリボン・ネットワーク

私どもは「小児がんの子どもたちが安心して生活できる社会の創造に寄与する」ことを設立理念とし、2008年6月に発足しました。発足以来、会員の皆様をはじめ多くの方々のご支援をいただき、小児がんの子どもたちの笑顔のためにさまざまな活動に取り組んでいます。

### 1 小児がん経験者のQOL（生活の質）向上のための研究支援

小児がん経験者のQOL向上のための研究を支援しています。さらに、小児がんで入院している子どもたちの学習環境整備の支援にも力を入れ、2012年には大阪市立総合医療センターに「ゴールドリボンe学習室」を開設しました。これは2009年に日大医学部附属板橋病院に設置した学習室に続く2例目の支援となります。また、小児がん患児とその家族のためのサマーキャンプ、東日本大震災で被災した小児がん経験者（高校生対象）の奨学金制度など、小児がん経験者への直接の支援にも取り組んでいます。

### 2 小児がんの治癒率向上のための研究支援

小児がんの上位を占める「脳腫瘍」「肉腫」「白血病」の三分野および「抗がん剤」について各分野ごとに研究（グループ）を選定し、複数年支援しています。それがより効果的な研究につながると考えています。

### 3 小児がんの情報提供と小児がんへの理解促進

小児がんに関する理解を広げていくために、ゴールドリボン・ウォーキングやチャリティー・コンサートなどのイベントを実施しています。また、小児がんに関する情報提供として、公益財団法人 先端医療振興財団・臨床研究情報センターの協力をいただき、小冊子「小児がん情報」を刊行しています。

#### 認定NPO法人 ゴールドリボン・ネットワーク

理事長 松井秀文

〒161-0033 東京都新宿区下落合 3-2-12-302 / TEL&FAX 03-3952-2640 / E-mail npo@goldribbon.jp

<http://www.goldribbon.jp>



2012年4月「ゴールドリボン・ウォーキング2012」@日比谷

2012年10月、ゴールドリボン・ネットワークは、東京都より認定NPO法人としての認定を受けました。これにより、当NPOへの寄付（会費を含みます）は、個人、法人を問わず税制上の優遇措置を受けることができるようになりました。

今年の6月で設立5周年となりますが、今後も小児がんの子どもたちの笑顔のために着実な歩みを続けていきたいと考えています。

# 小児がんなど難病と闘う子どもと、 一緒に闘うご家族を支援する アフラックペアレンツハウスです。



ペアレンツハウス亀戸

※1  
スタートして11年、

※2  
7,303家族を支えてきました。そして、これからも。

調理器具がそろった  
共同キッチンで、  
いつでも我が家の味を  
作ってあげることが  
できます。



子どもの入院中は  
洗濯物が増えがち。  
施設内には24時間  
無料で使える  
衛生的なランドリーがあります。

病院から帰ると、  
いつでも  
ハウスマネージャーが  
出迎えます。

多くのボランティアによって  
ペアレンツハウスは  
支えられています。そして  
アフラックとアソシエイツ※3も  
積極的にサポートしています。

※1. ペアレンツハウス亀戸 (2001年2月開設)

※2. ペアレンツハウス3棟の延べ利用家族数 (2012年4月末現在)

※3. アフラックの保険販売代理店

アフラックペアレンツハウス亀戸・浅草橋

03-5209-9131

受付時間：10:00～18:00  
(月～土 祝日を除く)

アフラックペアレンツハウス大阪

06-6263-1415

受付時間：10:00～18:00  
(月～金 祝日を除く)

「生きる」を創る。

**Aflac**

アフラック (アメリカンファミリー生命保険会社)

〒163-0456 東京都新宿区西新宿 2-1-1 新宿三井ビル

☎ 0120-5555-95 URL: <http://www.aflac.co.jp/>